

6月8日 ペンテコステ礼拝説教要旨

「正義と恵みの業を」

山本一牧師

アモス書 5 章21～24節

マタイによる福音書12章15～21節

● 昨年末から月に2回、大阪の釜ヶ崎で行われている夜回りに参加しています。この半年の間にも、様々な野宿者の方々と出会いました。たとえば、車に足をひかれて動けないまま放置されていた人や、脳梗塞の疑いがありながらも病院に行く方法がわからない人など、日本の大都市・大阪にも孤独や貧困にあえぐ方々がいることに心を痛めています。

● 旧約聖書アモス書には「**正義を洪水のように、恵みの業を大河のように尽きることなく流れさせよ**」とあります。預言者アモスの時代、社会は正義や公正さを欠き、貧しい人が搾取され、詐欺が横行していました。アモスは、その民に厳しい裁きの言葉を告げました。この言葉は、現代の社会にも強く響いてきます。

● マタイ 12 章には、預言者イザヤの言葉が出てきます。「**見よ、わたしの選んだ僕…この僕にわたしの霊を授ける、…彼は争わず、叫ばず、その声を聞くものは大通りにはいない。正義を勝利に導くまで、彼は傷ついた草を折らず、くすぶる灯芯を消さない。異邦人は彼の名に望みをかける。**」

神の霊を受けられたイエス様は、この世に正義と恵みの業を力強く示されました。しかし、それは武器を取って戦ったり、声高に誰かを糾弾したりすることではありませんでした。不条理や不正、悪によって傷つき、今にも折れそうな絶望の淵にいる人々を決して虐げず、見捨てず、正義と愛の業を黙々と続けられたのがイエス様でした。その姿に触れた人は、神を知る人も知らない人も、主の霊と大きな希望で包まれたのだと聖書は伝えています。

● この「弱さに寄り添う正義」の実践者として、私たちは賀川豊彦牧師の名を忘れることはできません。賀川牧師は、貧困や不正のただ中であって日本各地を巡り、キリスト教を伝え、一人ひとりが人間らしく生きられるよう福音を**実践した**人物でした。彼の生き方は、預言者アモスやイエス様が語る信仰と行動の一致を、まさに私たちに突きつけています。伊丹教会は、かつて賀川豊彦を講演に招いたことをきっかけに生まれました。つまり、この教会の歩みそのものが、聖霊に押し出されて生まれた「愛と正義の業」の実なのです。

● ペンテコステは、主の聖霊を注がれた弟子たちが恐れを超えて(死線を超えて)外へと遣わされていった日です。この日、神の霊は教会を生み出し、イエス・キリストの正義と恵みの業が世に広がっていきました。私たちも伊丹教会のルーツを思い起こしつつ、主の霊を受けて、この世へと押し出されていく群れになりたいと願います。